



2016年6月10日

各位

会社名 本田技研工業株式会社

代表者 取締役社長 八郷 隆弘

(コード: 7267、東証第一部)

問合せ先 事業管理本部 経理部長

鈴木 雅文

(TEL. 03-3423-1111)

(訂正)「平成 28 年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」の一部訂正について

2016年5月13日に公表しました「平成28年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」について、一部訂正すべき点がありましたので、下記のとおり訂正します。なお、数値データについては、訂正はありません。

記

訂正の内容

訂正箇所は下線で表示しています。

1. 2ページ 1. 連結経営成績・連結財政状態に関する分析 (1) 連結経営成績に関する分析 当年度の連結業績の概況

【訂正前】

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日までの12ヵ月間)の連結売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、14兆6,011億円と前年度にくらべ9.6%の増収となりました。

【訂正後】

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日までの12ヵ月間)の連結売上収益は、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、14兆6,011億円と前年度にくらべ9.6%の増収となりました。

2. 3ページ 1. 連結経営成績・連結財政状態に関する分析 (1) 連結経営成績に関する分析
当年度の連結業績の概況 事業の種類別セグメントの状況

【訂正前】

(四輪事業)

四輪事業の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、連結売上台数の増加などにより、10兆6,254億円と前年度に比べ10.6%の増収となりました。営業利益は、台数変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果などはあったものの、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、1,533億円と前年度に比べ45.2%の減益となりました。

(金融サービス事業)

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、オペレーティング・リース売上やリース車両売却売上の増加などにより、1兆8,356億円と前年度に比べ18.0%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などにより、1,993億円と前年度に比べ1.6%の減益となりました。

(汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業)

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業[※]の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、その他の事業の売上収益の増加などにより、3,347億円と前年度に比べ3.8%の増収となりました。営業損失は、その他の事業に関する費用の増加などにより、311億円と前年度に比べ272億円の悪化となりました。

【訂正後】

(四輪事業)

四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加などにより、10兆6,254億円と前年度に比べ10.6%の増収となりました。営業利益は、台数変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果などはあったものの、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、1,533億円と前年度に比べ45.2%の減益となりました。

(金融サービス事業)

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、オペレーティング・リース売上やリース車両売却売上の増加などにより、1兆8,356億円と前年度に比べ18.0%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などにより、1,993億円と前年度に比べ1.6%の減益となりました。

(汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業)

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業[※]の外部顧客への売上収益は、その他の事業の売上収益の増加などにより、3,347億円と前年度に比べ3.8%の増収となりました。営業損失は、その他の事業に関する費用の増加などにより、311億円と前年度に比べ272億円の悪化となりました。

3. 4 ページ 1. 連結経営成績・連結財政状態に関する分析 (1) 連結経営成績に関する分析
当年度の連結業績の概況 所在地別セグメントの状況

【訂正前】

(北 米)

売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、8兆5,370億円と前年度にくらべ18.6%の増収となりました。営業利益は、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、売上変動及び構成差に伴う利益増などにより、2,108億円と前年度にくらべ16.2%の増益となりました。

(欧 州)

売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、四輪事業の売上収益の増加などにより、7,760億円と前年度にくらべ7.2%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、売上変動及び構成差に伴う利益増などにより、187億円と前年度にくらべ413億円の増益となりました。

(ア ジ ア)

売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、四輪事業や二輪事業の売上収益の増加などにより、3兆5,353億円と前年度にくらべ6.2%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、コストダウン効果、売上変動及び構成差に伴う利益増、為替影響などにより、3,355億円と前年度にくらべ20.3%の増益となりました。

(その他の地域)

売上収益は、四輪事業の売上収益の増加などはあったものの、二輪事業の売上収益の減少や為替換算による売上収益の減少影響などにより、8,086億円と前年度にくらべ14.9%の減収となりました。営業損失は、コストダウン効果などはあったものの、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、83億円と前年度にくらべ484億円の減益となりました。

【訂正後】

(北 米)

売上収益は、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、8兆5,370億円と前年度にくらべ18.6%の増収となりました。営業利益は、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、売上変動及び構成差に伴う利益増などにより、2,108億円と前年度にくらべ16.2%の増益となりました。

(欧 州)

売上収益は、四輪事業の売上収益の増加などにより、7,760億円と前年度にくらべ7.2%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、売上変動及び構成差に伴う利益増などにより、187億円と前年度にくらべ413億円の増益となりました。

(ア ジ ア)

売上収益は、四輪事業や二輪事業の売上収益の増加などにより、3兆5,353億円と前年度に比べ6.2%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、コストダウン効果、売上変動及び構成差に伴う利益増、為替影響などにより、3,355億円と前年度に比べ20.3%の増益となりました。

(その他の地域)

売上収益は、二輪事業の売上収益の減少などにより、8,086億円と前年度に比べ14.9%の減収となりました。営業損失は、コストダウン効果などはあったものの、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、83億円と前年度に比べ484億円の減益となりました。

以上